		等專門学	父 F	開講年度	令和06年度 (2	2024年/支)	1又ラ	養科目	基礎解析Ⅳ	
科目基礎	楚情報	,								
科目番号		0312	ļ			科目区分		一般 / 選択	3	
授業形態		講義				単位の種別と単位	位数	覆修単位:	1	
開設学科		機械工	学科			対象学年		3		
用設期 開設期		前期				週時間数		2		
教科書/教	材	「新編 数学2	「新編高専の数学2,3(第2版)」 数学2,3問題集(第2版)」(森4) ISBN: 978-4 N: 978-4-627-0	1-627-0 ₄ 4852-2,	1823-2, 9 978-4-62	78-4-627-04833-1/「 27-04862-1,教材プリン	 新編高専の ント
担当教員		勝谷氵	- 明,髙村 明	月,佐々木 祐			,		,	
到達目標	画	1		-,,	'					
(イ)区分3 た、曲線の	求積法によ の長さが計	る定積分と 算できる。	面積の関係	・部分積分法 系及び定積分 遠積分の計算	かと体積の関係を理	分の計算ができる 解して簡単な平面	。また、 図形の面	逆三角関数 積および簡	女に関連した積分の計算な 簡単な立体の体積が計算で	ができる。 ごきる。ま
ルーブリ	ノック									
			理想	的な到達レ	ベルの目安	標準的な到達レイ	ベルの目	安	未到達レベルの目安	
評価項目((ア)		、それる。	積分法・部分 れらに関する また、逆三次の応用問題が	置換積分法・部分積分法を理解し、それらに関する基本的な問題が解ける。また、逆三角関数に関連した積分の基本的な問題が解ける。。			置換積分法・部分積分法に関する 基本的な問題が解けない。また、 逆三角関数に関連した積分の基本 的な問題が解けない。		
評価項目((イ)			ロアスイダム こと (オアンス) では、アスティー (リー・アス) では、 アス また 、 世紀の 日 (中間 1995) では、 アス また 、 世紀の 日 (中間 1995) では、 アス (アス) では、 アス (積分の関係を理解 ・体積に関する基 ける。また、曲線 基本的な問題が解 はたに関する基本的な問題 ない。			こ、曲線の
評価項目(ウ)			広義を分に	積分の概念 [。] 関する応用	を理解し、広義積 問題が解ける。	古美佳八 6 阿合士 四知 · 古美佳			広義積分に関する基本的 解けない。	りな問題が
 学科のst	到達目標:	項目との	関係			•			•	
	目標②基礎		- S 1415							
教育方法		WC J 7J								
		学ぶ. , より	そして区分	すんできたが 分求積法によ こ積分法を学	バ,新たに和の極限 いて,平面図形の	更に発展的な積分 <i>0</i> としての区分求積 面積や立体の体積	法による	定積分の気	E義および微分積分学の る. さらに広義積分の概念	基本定理を
注意点 選択必何	め方・方法 <u>多の種別</u> (数)	学ぶ. , より	そして区分 拡張された	♪求積法によ	バ,新たに和の極限 いて,平面図形の	としての区分求積	法による	定積分の気	『義および微分積分学の』	基本定理を
受業の進む 主意点 選択必修 選択必修	多の種別 (数)	学ぶ. , より : ・旧カリ	そして区分拡張された	♪求積法によ	バ,新たに和の極限 いて,平面図形の	としての区分求積	法による	定積分の気	『義および微分積分学の』	基本定理を
受業の進む 主意点 選択必修 選択必修 受業の原 」アクラ	多の種別	学ぶ. , より ・旧カリ 修上の区	そして区分 拡張された 科目名 分	♪求積法によ	バ,新たに和の極限 いて,平面図形の	としての区分求積	法によるの求め方	定積分の気	『義および微分積分学の』	基本定理を 会を学び
受業の進を 主意点 選択必修 選択必修 受業の原 」アクラ	多の種別 (数) 属性・履 ティブラー:	学ぶ. , より ・旧カリ 修上の区	そして区分 拡張された 科目名 分	分求積法によた積分法を学	バ,新たに和の極限 いて,平面図形の	としての区分求積面積や立体の体積	法によるの求め方	定積分の気	E義および微分積分学の場合。 さらに広義積分の概念	基本定理を 会を学び
受業の進を 主意点 選択必修 選択必修 受業の原 」アクラ	多の種別 (数) 属性・履 ティブラー:	学ぶ. , より ・旧カリ 修上の区	そして区分 拡張された 科目名 分	分求積法によた積分法を学	バ,新たに和の極限 いて,平面図形の	としての区分求積面積や立体の体積	法によるの求め方	定積分の気	E義および微分積分学の場合。 さらに広義積分の概念	基本定理を 会を学び
受業の進を 主意点 選択必修 選択必修 受業の原 」アクラ	多の種別 (数) 属性・履 ティブラー:	学ぶ. , より ・旧カリ 修上の区	そして区分 拡張された 科目名 分	う求積法によ た積分法を学	バ,新たに和の極限 いて,平面図形の	としての区分求積面積や立体の体積	法によるの求め方	定積分の気	E義および微分積分学の場合。 さらに広義積分の概念	基本定理を 会を学び
受業の進を 主意点 選択必修 選択必修 受業の原 」アクラ	多の種別 (数) 属性・履 ティブラー:	学ぶ. , より ・旧カリ 修上の区 ニング	そして区分 拡張された 科目名 分 □ Id	う求積法によ た積分法を学	バ,新たに和の極限 いて,平面図形の	としての区分求積面積や立体の体積	法によるの求め方	定積分の原を学習する を学習する	E義および微分積分学の場合。 さらに広義積分の概念	を 本定理を また 学び を 学び を 学び を 学び を 学び を かいまた かいまた かいまた かいまた かいまた かいまた かいまた かいまた
受業の進を 主意点 選択必修 選択必修 受業の原 」アクラ	多の種別 (数) 属性・履 ティブラー:	学ぶ。 ・旧カリ ・旧カリ 修上の区 ニング 週 1週	そして区分 拡張された 科目名 分 □ Iu 授業内容 既習のP	予求積法によ ・積分法を学 CT 利用 容 内容の復習	が, 新たに和の極限 いって, 平面図形の 学習する.	としての区分求積面積や立体の体積	法によるの求め方	定債分の気を学習する を学習する の到達目標 でに学んだん	E義および微分積分学の場 3. さらに広義積分の概念 □ 実務経験のある教員 微分積分の内容を再度理	を 本定理を また 学び を 学び を 学び を 学び を 学び を かいまた かいまた かいまた かいまた かいまた かいまた かいまた かいまた
受業の進む 注意点 選択必修 選択必修 受業の原 〕 アクラ	多の種別 (数) 属性・履 ティブラー:	学ぶより ・旧カリ 修上の区 ニング 週 1週 2週	そして区分 拡張された 科目名 分 □ IG 授業内容 逆三角	予求積法によ こ積分法を学 CT 利用 容 内容の復習 関数に関連し	が、新たに和の極限 いって、平面図形の が習する。	としての区分求積面積や立体の体積	法によるの求め方	定情分のなを学習する シ到達目標でに学んだで 関数に関連	E義および微分積分学の場 3. さらに広義積分の概念 □ 実務経験のある教員 □ 対積分の内容を再度理 □ した積分が計算できる。	本定理を含を学び
受業の進む 注意点 選択必修 選択必修 受業の原 〕 アクラ	多の種別 (数) 属性・履 ティブラー:	・旧カリ 修上の区 ニング 週 1週 2週 3週	そして区分 拡張された 科目名 分 □ IG 授業内容 既習のP 逆三角B いろいる	予求積法によ 三積分法を学 CT 利用 容の復習 関数に関連し 3な関数の2	が、新たに和の極限 たって、平面図形の で習する。 とで でで で で で で で で で で で で で で で で で で	としての区分求積面積や立体の体積	法による の求め方 <u>週ごとの</u> これまで 逆三角関 置換積が	定積分の気を学習する つ到達目標でに学んだで 関数に関連 対法・部分	E義および微分積分学の場合。 3. さらに広義積分の概念 実務経験のある教員	を 本定理を また で は で よる 授 による 授 解する。
受業の進を 主意点 選択必修 選択必修 受業の原 」アクラ	多の種別 (数) 属性・履 Fィブラー: 画	・旧カリ 修上の区 ニング 週 週 2週 3週 4週	そして区分 拡張された 科目名 分 □ IG	予求積法によ 三積分法を学 CT 利用 容 対容の復習 関数に関連し 3な関数の 3な関数の 3な関数の 3な関数の	で、新たに和の極限 につて、平面図形の で習する。 とで でで で で で で で で で で で で で で で で で で	としての区分求積面積や立体の体積	法による の求め方	定積分の気を学習する を学習する でに学んだで 関数に関連 分法・部分科 るな関数の	正義および微分積分学の表 3. さらに広義積分の概念 □ 実務経験のある教員 微分積分の内容を再度理! した積分が計算できる。 積分法を理解する。 不定積分の計算ができる。	を 本定理を また で は で よる 授 による 授 解する。
受業の進む 注意点 選択必修 選択必修 受業の原 〕 アクラ	多の種別 (数) 属性・履 ティブラー:	・旧カリ 修上の区 1週 1週 3週 4週 5週	そして区分析 村目名 分 一 近 一 近 いろいろ リーマン	予求積法によ ・ 積分法を学	が、新たに和の極限 たって、平面図形の 学習する。 一 と間する。 一 た積分 下定積分 下定積分 直としての定積分	としての区分求積面積や立体の体積	法による の求め方 <u></u> <u></u> <u></u> <u></u> <u></u> <u></u> <u></u> <u></u> <u></u> <u></u> <u></u> <u></u> <u></u>	定積分の気を学習する 一型達目標で 関数に学り、 対法・部数の 気な関数の 気はと定積	正義および微分積分学の表 3. さらに広義積分の概念 □ 実務経験のある教員 微分積分の内容を再度理り した積分が計算できる。 積分法を理解する。 不定積分の計算ができる。 分の関係を理解する。	を 本定理を また 学び は による授 解する。
受業の進む 注意点 選択必修 選択必修 受業の原 〕 アクラ	多の種別 (数) 属性・履 Fィブラー: 画	・旧カリ ・旧カリ ・旧カリ の区 1週 3週 4週 5週 6週	そして区分析 林目名 分 一 近 一 近 いろいろ リーマン いろいろ いろいろ いろいろ いろいろ いろいろ いろいろ	予求積法によった。 一様分法を学生を表現を表現を表現を表現を表現を表現を表現を表現を表現を表現を表現を表現を表現を	が、新たに和の極限 にって、平面図形の 学習する。 した積分 下定積分 下定積分 下定積分 直としての定積分 E積分	としての区分求積面積や立体の体積	法によるの	定債分の気を学習する 一型達目標で関数に関数に に対して関数に対して対して対して対して対して対して対して対して対して対して対して対して対して対	正義および微分積分学の表 3. さらに広義積分の概念 3. さらに広義積分の概念 二 実務経験のある教員 一 実務経験のある教員 した積分が計算できる。 情分法を理解する。 不定積分の計算ができる。 分の関係を理解する。 定積分が計算できる。	を 本定理を また で は で よる 授 による 授 解する。
受業の進を 主意点 選択必修 選択必修 受業の原 」アクラ	多の種別 (数) 属性・履 Fィブラー: 画	・旧カリ 修上グ 週週週週 3週 4週週 6週 7週	そして区分が 科目名	予求積法によった。 一、積分法を学生を表現を表現を表現を表現を表現を表現を表現を表現を表現を表現を表現を表現を表現を	で、新たに和の極限 にって、平面図形の で習する。 とで で で で で で で で で で で で で で	としての区分求積面積や立体の体積	法によるの ぶとの これまで 逆三角 置換積が いろいる いろいる	定債分のでを学習する 到達目標に関数に関数に部分は、対して対して対して対して対して対して対して対して対して対して対して対して対して対	正義および微分積分学の表 3. さらに広義積分の概念 3. さらに広義積分の概念 一 実務経験のある教員 一 実務経験のある教員 した積分が計算できる。 情分法を理解する。 不定積分の計算ができる。 分の関係を理解する。 定積分が計算できる。 定積分が計算できる。	本定理を含を学びなる。
受業の進を 主意点 選択必修 選択必修 受業の原 」アクラ	多の種別 (数) 属性・履 Fィブラー: 画	・旧カリ ・旧カリ ・旧カリ の区 1週 3週 4週 5週 6週	そして区分が 科目名	予求積法によった。 一様分法を学生を表現を表現を表現を表現を表現を表現を表現を表現を表現を表現を表現を表現を表現を	で、新たに和の極限 にって、平面図形の で習する。 とで で で で で で で で で で で で で で	としての区分求積面積や立体の体積	法によるの ぶとの これまで 逆三角 置換積が いろいる いろいる	定債分のでを学習する 到達目標に関数に関数に部分は、対して対して対して対して対して対して対して対して対して対して対して対して対して対	正義および微分積分学の表 3. さらに広義積分の概念 3. さらに広義積分の概念 二 実務経験のある教員 一 実務経験のある教員 した積分が計算できる。 情分法を理解する。 不定積分の計算ができる。 分の関係を理解する。 定積分が計算できる。	本定理を含めている。
受業の進む 主意点 選択必修 受業の原 □ アクラ 込履修 受業計画	多の種別 (数) 属性・履 Fィブラー: 画	・旧カリ 修上グ 週週週週 3週 4週週 6週 7週	そして区分が 科目名 分 □ Iu 一 Iu	予求積法によった。 一、積分法を学生を表現を表現を表現を表現を表現を表現を表現を表現を表現を表現を表現を表現を表現を	で、新たに和の極限 たって、平面図形の を習する。 とで 下定積分 下定積分 を直としての定積分 を積分 を積分	としての区分求積面積や立体の体積	法による方 過ごれまで このでは、 このでは、 このでは、 このでは、 による方 による方 による方 による方 による方 による方 による方 による方 による方 による方 による方 による方 による方 による。 による方 になる方 になるる になる方 になる になる になる になる になる になる になる になる	定積分のでを学習する シ到達目標でに関数にでは、 を関数にでいる。 を関数にでいる。 を関数のででは、 を関数のでは、 を関する を関する を関する	正義および微分積分学の表 3. さらに広義積分の概念 3. さらに広義積分の概念 一 実務経験のある教員 一 実務経験のある教員 した積分が計算できる。 情分法を理解する。 不定積分の計算ができる。 分の関係を理解する。 定積分が計算できる。 定積分が計算できる。	基本定理を まを学び 解する。 ることを理
受業の進む 主意点 選択必修 選択必修 受業の原 」アクラ 必履修 受業計画	多の種別 (数) 属性・履 Fィブラー: 画	・旧カリ 修二ング 週週 1週 3週 4週 5週 6週 7週 8週	そして区分が 科目名 分 □ Iu 一 Iu	予求積法によう 一式 一式 一式 一式 一式 一式 一、 一、 一、 一、 一、 一、 一、 一、 一、 一、	で、新たに和の極限 たって、平面図形の を習する。 とで 下定積分 下定積分 を直としての定積分 を積分 を積分	としての区分求積面積や立体の体積	法の	定情分のでを学習する の到達目標でに関数に関数に関数に関数を関数に関数を関数を定義を関数のでででででである。 は、は、関数ののででででである。 では、では、では、では、では、では、では、では、では、では、では、では、では、で	正義および微分積分学の表 3. さらに広義積分の概念 3. さらに広義積分の概念 一 実務経験のある教員 一 実務経験のある教員 した積分が計算できる。 情分法を理解する。 不定積分の計算ができる。 分の関係を理解する。 定積分が計算できる。 定積分が計算できる。 直積分が計算できる。 面図形の面積が計算でき	基本定理を また学び 解する。 ることを明 る。
受業の進む 主意点 選択必修 選択必修 受業の原 」アクラ 必履修 受業計画	多の種別 (数) 属性・履 ディブラー: 画	・ 旧 か	そ拡張本は科目名分授業内容・ 以のののののののののののののののののののののののののののののののののののの	・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・	で、新たに和の極限 たって、平面図形の を習する。 とで 下定積分 下定積分 を直としての定積分 を積分 を積分	としての区分求積面積や立体の体積	法の 週 こ 逆 置 い 区 い い 定解 定 定る ご れ 三 換 ろ 分 ろ ろ 積 す 積 積。 で ま の で い い 定解 積 積 積。	定情分の気を学習する 到達目標で 関数に関連 法と関数の るな関数の るな関数の を対して でに でに でに でに でに でに でに でに でに で	正義および微分積分学の表 3. さらに広義積分の概念 3. さらに広義積分の概念 満分積分の内容を再度理 した積分が計算できる。 積分法を理解する。 不定積分の計算ができる。 分の関係を理解する。 定積分が計算できる。 定積分が計算できる。 直図形の面積が計算できる。	基本定理を また学び 解する。 ることを理
受業の進む 主意点 選択必修 選択必修 受業の原 」アクラ 必履修 受業計画	多の種別 (数) 属性・履 ティブラー: 画	・ ドゥック ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・	 そ拡張 科目名 分 授業内容 以上のが 以上のが 以上のが はないのが はないのが はないのが はないのが はないのが はないのが はないのが はないのが 	予求積法を学り 一大大大大大大大大大大大大大大大大大大大大大大大大大大大大大大大大大大大大	で、新たに和の極限 たって、平面図形の を習する。 とで 下定積分 下定積分 を直としての定積分 を積分 を積分	としての区分求積面積や立体の体積	法の 週こ逆置い区いい定解定定る定定に求め ごれ三換ろ分ろろ積す積積。積積よる方とま角積が求れる。を 積積 積積 積積 積積 積分分	定情分のでを学習する シ到達目標で 関数に学関数に関数ので はな関数ので はな関数ので はな関数ので に対して立た に対しては に対しては に対していては に対していている に対している に対してい	正義および微分積分学の表 3. さらに広義積分の概念 3. さらに広義積分の概念 一 実務経験のある教員 一 実務経験のある教員 一 大積分が計算できる。 情分法を理解する。 一 不定積分の計算ができる。 一 かけまできる。 一 定積分が計算できる。 一 直図形の面積が計算できる。 面図形の面積が計算できる。 本の体積が計算できる。 はの体積が計算できる。 はの体積が計算できる。 はの体積が計算できる。	を な による で な を で る 。 る ことを 理解する。 る と を と を 要 の の の の の の の の の の の の の
受業の進む 主意点 選択必修 選択必修 受業の原 」アクラ 必履修 受業計画	多の種別 (数) 属性・履 ディブラー: 画	・ ト 修二 ・ ト 修二 ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・	そ拡科目分授署以のののののののののののののののののののののののののののののののののののの	・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・	で、新たに和の極限 たって、平面図形の を習する。 とで 下定積分 下定積分 を直としての定積分 を積分 を積分	としての区分求積面積や立体の体積	法の 週こ逆置い区いい定解定定る定定、 ごれ三換ろ分ろろ積す積積。積積曲 よる方 とま角積い求いい分。を を を を を を を を を を を を を を	定情分のでを学習する シ到達目標でで 関数に関数に関数に 対数は関数でで は、関数に関数ので は、対域に対して は、対域に対して に、対域に対して に、対域に対域に対して に、対域に対域に対域に対域に対域に対域に対域に対域に対域に対域に対域に対域に対域に対	正義および微分積分学の表 3. さらに広義積分の概念 3. さらに広義積分の概念 一 実務経験のある教員 一 実務経験のある教員 一 大積分が計算できる。 積分法を理解する。 不定積分の計算ができる。 一 定積分が計算できる。 定積分が計算できる。 直図形の面積が計算できる。 面図形の面積が計算できる。 体の体積が計算できる。 体の体積が計算できる。 体の体積が計算できる。 はのしまさが計算できる。 はのしまさが計算できる。	を を を で な を で な を で で で で で で で で で で で で で
受業の進む 主意点 選択必修 選択必修 受業の原 ご アクラ 必履修	多の種別 (数) 属性・履 ティブラー: 画	・ ト 修二 ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・	 そ拡張 科目 分 授習の角いる いいろろろうこと は本ののを は素別のでは はないのでは は素別のでは はないのでは は素積が 	予求積法によう では、 では、 では、 では、 では、 では、 では、 では、	で、新たに和の極限につて、平面図形ので習する。 一に積分でででででででででででででででででででででででででででででででででででで	としての区分求積面積や立体の体積	法の 週こ逆置い区いい定解定定る定定、 ごれ三換ろ分ろろ積す積積。積積曲 よる方 とま角積い求いい分。を を を を を を を を を を を を を を	定情分のでを学習する シ到達目標でで 関数に関数に関数に 対数は関数でで は、関数に関数ので は、対域に対して は、対域に対して に、対域に対して に、対域に対域に対して に、対域に対域に対域に対域に対域に対域に対域に対域に対域に対域に対域に対域に対域に対	正義および微分積分学の表 3. さらに広義積分の概念 3. さらに広義積分の概念 一 実務経験のある教員 一 実務経験のある教員 一 大積分が計算できる。 情分法を理解する。 一 不定積分の計算ができる。 一 かけまできる。 一 定積分が計算できる。 一 直図形の面積が計算できる。 面図形の面積が計算できる。 本の体積が計算できる。 はの体積が計算できる。 はの体積が計算できる。 はの体積が計算できる。	を を を で な を で な を で で で で で で で で で で で で で
受業の進む 主意点 選択必修 選択必修 受業の原 」アクラ 必履修 受業計画	多の種別 (数) 属性・履 ティブラー: 画	・ ト 修二 ・ ト 修二 ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・	 そ拡張 科目 分 授習の角いる いいろろろうこと は本ののを は素別のでは はないのでは は素別のでは はないのでは は素積が 	・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・	で、新たに和の極限につて、平面図形ので習する。 一に積分でででででででででででででででででででででででででででででででででででで	としての区分求積面積や立体の体積	法ののでは、このでは、このでは、このでは、このでは、このでは、このでは、このでは、	定情分のでを学習する。 「記書」を学習する。 「記書」を学習する。 「記書」を表現では、 「記書」を表現である。 「記書」を表現を表現を表現を表現を表現を表現を表現を表現を表現を表現を表現を表現を表現を	正義および微分積分学の表 3. さらに広義積分の概念 3. さらに広義積分の概念 一 実務経験のある教員 一 実務経験のある教員 一 大積分が計算できる。 積分法を理解する。 不定積分の計算ができる。 一 定積分が計算できる。 定積分が計算できる。 直図形の面積が計算できる。 面図形の面積が計算できる。 体の体積が計算できる。 体の体積が計算できる。 体の体積が計算できる。 はのしまさが計算できる。 はのしまさが計算できる。	を な な な な な な な を で な る 。 る こ と を 理解し と を 要 の の の の の の の の の の の の の
受業の進む 主意点 選択必修 選択必修 受業の原 」アクラ 必履修 受業計画	多の種別 (数) 属性・履 ティブラー: 画	・ ト 修二 ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・	 そ拡 科目名 分 授 既 逆 いい リ いい 空 積 いい フ いい 定 積 に 匠 体 体 の の 長	予求積法によう では、 では、 では、 では、 では、 では、 では、 では、	で、新たに和の極限につて、平面図形ので習する。 一に積分でででででででででででででででででででででででででででででででででででで	としての区分求積面積や立体の体積	法のの	定積分のでを学習する。 つ到達目標に関数に関数に関数を関数ででは、関数に関数を関数でででででででででででででででででででででででででででででででで	正義および微分積分学の表 3. さらに広義積分の概念 3. さらに広義積分の概念 一 実務経験のある教員 一	を な な な な な な な を で な る 。 る こ と を 理解し と を 要 の の の の の の の の の の の の の
受業の進む 主意点 選択必修 受業の原 □ アクラ 込履修 受業計画	多の種別 (数) 属性・履 ティブラー: 画	・ 修二 ・ ト 修二 ・ ト ク 週 週 週 週 週 週 週 週 週 週 週 週 週 週 週 週 週 週	 そ拡 科目名 分 授 既 逆 いい リ いい 空 積 いい フ いい 定 積 に 匠 体 体 の の 長	会内関の では では では では では では では では では では	で、新たに和の極限につて、平面図形ので習する。 一に積分でででででででででででででででででででででででででででででででででででで	としての区分求積面積や立体の体積	法のの	定積分のでを学習する。 つ到達目標に関数に関数に関数を関数ででは、関数に関数を関数でででででででででででででででででででででででででででででででで	正義および微分積分学の表 3. さらに広義積分の概念 為. さらに広義積分の概念 一 実務経験のある教員 一 大積分が計算できる。 情分法を理解する。 不定積分の計算ができる。 定積分が計算できる。 定積分が計算できる。 定積分が計算できる。 に直図形の面積が計算できる。 体の体積が計算できる。 体の体積が計算できる。 はのしますが計算できる。 はのしますが計算できる。 はのしますが計算できる。 はのはまずが計算できる。 はのはまずが計算できる。 はのはまずが計算できる。 はのはまずが計算できる。 はのはまずが計算できる。 はのはまずが計算できる。 はのはまずが計算できる。 はのはまずが計算できる。 はのはまずが計算できる。 はのはまずが計算できる。 はのはまずが計算できる。 はのはまずが計算できる。 はのはまずが計算できる。 はのはまずが計算できる。 はのはまずが計算できる。 はのはまずが計算できる。 はのはまずが計算できる。	を な な な な な な な を で な る 。 る こ と を 理解し と を 要 の の の の の の の の の の の の の
受業点と選択必修選択必修の原業に対している。	多の種別 (数) 属性・履 ディブラー: 画 1stQ	学 り ・ 修二 1 ・ 月の 2 13週週週週 3 15週週週 3 10週週 3 10週週 3 11週週 3 12週週 3 13週週 3 15週週 3 16回週 3 17回週 3 18回週 3 18回回 3 18回回	 そ拡 科目 分 授 既逆いいりいい 定 曲 立 立体線 積 がいる では は な な な は 積 が の 負 直 積 が の 負 直 前 前 の が の の 負 に す な な な な な な な な な な な な な な な な な な	会内関の では では では では では では では では では では	で、新たに和の極限である。 した積分 下定積分 を選する。 を選する。 を選する。 を選する。	としての区分求積面積や立体の体積	法のの	定積分のでを学習する。 つ到達目標に関数に関数に関数を関数ででは、関数に関数を関数でででででででででででででででででででででででででででででででで	正義および微分積分学の表 3. さらに広義積分の概念 為. さらに広義積分の概念 一 実務経験のある教員 一 大積分が計算できる。 情分法を理解する。 不定積分の計算ができる。 定積分が計算できる。 定積分が計算できる。 定積分が計算できる。 に直図形の面積が計算できる。 体の体積が計算できる。 体の体積が計算できる。 はのしますが計算できる。 はのしますが計算できる。 はのしますが計算できる。 はのはまずが計算できる。 はのはまずが計算できる。 はのはまずが計算できる。 はのはまずが計算できる。 はのはまずが計算できる。 はのはまずが計算できる。 はのはまずが計算できる。 はのはまずが計算できる。 はのはまずが計算できる。 はのはまずが計算できる。 はのはまずが計算できる。 はのはまずが計算できる。 はのはまずが計算できる。 はのはまずが計算できる。 はのはまずが計算できる。 はのはまずが計算できる。 はのはまずが計算できる。	を な な な な な な な を で な る 。 る こ と を 理解し と を 要 の の の の の の の の の の の の の
受業点は選択必修選択必修とできます。 選択の原では、 の原では、 のののできます。 ののできます。 ののできます。 ののできます。 ののできます。 ののできます。 ののできます。 ののできます。 ののできます。	多の種別 (数) 属性・履 ディブラー: 画 1stQ	学 り ・ 修二 1 ・ 月の 2 13週週週週 3 15週週週 3 10週週 3 10週週 3 11週週 3 12週週 3 13週週 3 15週週 3 16回週 3 17回週 3 18回週 3 18回回 3 18回回	 そ拡 科 分 授既逆いいリいい 定 曲 立 立 曲 広演前 習 では、 では、 では、<	To a part of the first of the	で、新たに和の極限である。 した積分 下定積分 を選する。 を選する。 を選する。 を選する。	としての区分求積面積や立体の体積	法のの	定積分のでを学習する。 つ到達目標に関数に関数に関数を関数ででは、関数に関数を関数でででででででででででででででででででででででででででででででで	正義および微分積分学の表。 さらに広義積分の概念。 さらに広義積分の概念。	を を を で な を で な を で で で で で で で で で で で で で

			簡単	簡単な場合について、曲線の長さを定積分で求めることができる。 簡単な場合について、立体の体積を定積分で求めることができる。				3	前12	
			簡単					3	前10,前11	
評価割合										
		定期試験		中間試験		課題	4	計		
総合評価割合	ì	50		30		20	1	00		
基礎的能力		50		30		20	1	00		